

## 6、筋ジス病棟における急変時の看護手順表作成

国立療養所西別府病院

百 武 多津子      松 下 ハナ子  
小 畑 千代子

### 〔目 的〕

急変時の看護処置は、PMDに限らず、他の疾患においても共通したものであるが、PMD患者の場合、どのような点について注意しなければならないのか、再度、認識を深めるために看護手順表作成に取り組んでみた。

### 〔方 法〕

手順表の作成は、ファイルを利用し、ページがすすむとともに処置手順の流れがわかるようにしてみた。

内容は、表1に示す如く、心肺蘇生法を中心とした一般的な救急看護を基に、PMD患者において注意すべき点等を付け加えて、異常の発見から医師到着までに行なわなければならない処置手順を12ページにまとめ、その他、ハート・モニターやレスピレーターの使用法の説明書を添付した。

### 〔考 察〕

この手順表作成の結果としては、PMD独自のものを導き出すには至らずPMD患者においても一般の心肺蘇生法を十分に理解、マスターしておけばよいと思われる。

しかし、PMD患者の場合、骨格の

変形が大きく、項部拘縮がある患者の気道確保については下顎の挙上が困難なこともあり、その患者にとって最も気道が開放される体位を知っておかなければならない。また、心マッサージについても脊柱や胸郭の変形の程度によっては、胸骨と脊柱との間に心臓が位置しない患者もあり心マッサージ施行時には脊柱の代用となるよう背部にタオルでくるんだ本等を挿入したりして、患者個々に応じた体位の補正が必要である。体位の補正については入浴時、体位交換時等あらゆる

表1

(ページ)	(内 容)
P 1	: 心肺蘇生法の手順
P 2	: 心停止、呼吸停止について
P 3~4	: 処 置 手 順
P 5	: 観 察
P 6~7	: 気 道 確 保
P 8	: 人 工 呼 吸 (マウス・ツェー・マウス法)
P 9	: 人 工 呼 吸 (レス・バッグ使用)
P 10~12	: 心マッサージ
P 13~14	: 救 急 物 品
P 15	: 使 用 薬 品
P 16~20	: レスピレーター ハート・モニターの使用方法

る機会を通じて患者個々の脊柱や胸郭の変形等を把握しておくべきである。

### [むすび]

以上のことから、

- ① 日常より、変形の状態を十分に把握しておく。
- ② 患者個々の心臓の位置関係を知っておく。  
(医師の協力を得て、カーデックスに記録しておく)
- ③ 救急処置手順(技術)の習熟に努める。
- ④ 救急物品、機械器具の点検、整備を怠らない。
- ⑤ 予想される事態に対する心構えを持ち、一般状態の観察を行なう。

に、まとめられるが、今後の課題としては、この手順表作成にとどまらず、患者個々について病状の把握、予想される事態に対する処置のあり方等を主治医にも参加してもらい、積極的なケース・カンファレンスを行っていきたいと思う。

### P 7. 気道確保

#### 2) 下顎挙上法について

- ① マスクによる人工呼吸時、有用である。
- ② 状態維持……片手の中指、薬指、小指を下顎角にあてて支える。

#### [その他]

#### 1) 脊柱の変形が著しい患者の場合

- ① 無理に行なうことなく、患者の変形に応じて、最も気道が開放される姿勢を保つ。
- ② 患者の肩の下に枕などを入れるだけでもよい。

#### 2) 吸引器による吸引

- ① 口腔からの吸引だけでなく、鼻腔からの吸引も効果的である。
- ② 1回の吸引時間は、できるだけ短くする。

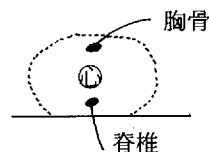
### P 11~12 心マッサージ

#### [その他]

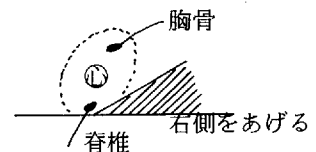
#### 1) 脊柱変形のある場合

- ① 強度の変形の場合は、本などを利用し段差をつけて体位を整えた後、圧迫する。(変形により、胸骨と脊柱の間に心臓がはさまれないため、脊柱の代用となるよう背部に固いものを挿入する)
- ② 脊柱の変形が著しくない場合は、ほぼ普通どおり、垂直方向に圧迫してよい。

(正常な場合)



(左側弯の場合)



↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

〔目的〕

急変時の看護処置は、PMD に限らず、他の疾患においても共通したものであるが、PMD 患者の場合、どのような点について注意しなければならないのか、再度、認識を深めるために看護手順表作成に取り組んでみた。